



形成外科・美容外科 診療科長挨拶

永竿科長



4月1日より形成外科講座の教授職を拝命いたしました永竿智久（ながさお ともひさ）と申します。私は平成2年に慶應大学を卒業し、その後24年間東京・神奈川といった関東地方で働いてまいりましたが、平成26年秋より香川に赴任させていただいております。

香川に赴任してつらつら感じることは、内科系・外科系を問わずすべての臨床科の水準が高く、東京の大学病院やセンター病院と比較してもなんら遜色がないどころか、むしろ優れている分野も多いことです。

この理由は、香川という自然の豊かな地域にあってスタッフの感性が研ぎ澄まされているせいではないでしょうか。医療は人間を相手にする営みですが、人間の身体も自然の一部です。自然の一部である以上、人智を以って予測できない部分も多く、そこにいかに上手に対応するかという点こそが、医療のレベルを決める勘所です。こうした意味で医療は農業や漁業のような1次産業に近く、香川が東京に優れる所以であります。

ところが惜しむらくは香川のひかえめな県民性のせいか、あまり他の地域に向けて宣伝しないので、その実力が伝わっていない嫌いがあります。

そこで私は香川大学の医療水準の高さを都市部に向けて発信するミッションを自分に科しました。このためにもっとも有効な手立ては東京・大阪のような大都市から当院に多くの患者さんにおいてになっていただくことです。この点、形成外科は患者さんの健康状態にはさほど問題がないことが多く、良い治療を提供しさえすれば、県をまたいで広く全国より患者さんにおいてになっていただけると信じております。このために形成外科のスタッフとともにども全力を尽くさせていただきます。

患者満足度調査 報告

医療支援室

香川大学医学部附属病院では、地域の皆様に信頼され、安全で満足いただける医療の提供を目指しております。今後の病院運営の参考とし、患者さんに対するサービス等の充実のためにアンケート調査を、平成28年12月に実施いたしました。外来患者さん1,399、入院患者さん212から回答をいただきました。「施設・整備」、「病院職員の言葉遣い・態度」、「診療」、「病棟病室」について、非常に満足（5点）、満足（4点）、ふつう（3点）、やや不満（2点）、不満（1点）を選んでいただき、質問全体の平均点は3.58点でした。

当院を選んでいただいた理由は、外来患者さん・入院患者さんとも「他の医療機関からの紹介」が一番多く、次いで「以前から通っている」、医療水準・医療スタッフ・設備施設の質の高さを理由にあげて下さり、約75%の患者さんが知人等に当院を紹介や推薦してもよいとお考えでした。100点満点での評価は外来患者さん81点、入院患者さん87点の評価を頂きました。

「感謝・お褒めの言葉」を頂き、職員一同大変うれしく思っています。また、同時に頂きました多くの「ご意見・ご要望」についても真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでいきたいと思えます。

職員一同、さらに質の高い医療をお届けできるように努力して参ります。

皮膚の役割

皮膚は体表を覆う人体最大の臓器です。皮膚の主な働きには①体を守るバリアの役割②水分の喪失を防ぐ③体温を調節する④感覚器としての役割などがあり、人間が生きていく上で欠かせないものばかりです。

また、皮膚は「心の鏡」「内臓の鏡」とも言われるように、ストレスや内臓疾患を反映して皮膚に症状が現れることもあるのです。

主な皮膚がんの種類

皮膚がんには多くの種類がありますが、下記の3つで皮膚がんの90%を占めます。初期の皮膚がんは「羊の皮をかぶった狼」のように、外見は悪そうでなく自覚症状もないことがほとんどです。

①有棘細胞がん 長期間日光を浴び続けることで、表皮細胞の一部である有棘細胞が悪性化＝がん化したものです。日光のあたる部位、とくに顔面に多くみられます。初期には小さな赤みの上に角化を伴う「日光角化症」として発症します。病変が進行した有棘細胞がんは紅色の大きな腫瘤を形成し、皮膚以外の臓器へ転移を起こします。

②基底細胞がん 長期間日光を浴び続けることで、表皮細胞の一部である基底細胞ががん化したものです。基底細胞がんの8割は、顔面にみられます。初期には黒色のほくろに似ていますが、進行すると大型になり、潰瘍を形成します。転移は比較的まれです。

③悪性黒色腫 メラニン色素を作る細胞であるメラノサイトががん化したもので、「ほくろのがん」として知られています。日本人では手足や爪に多く発症し、全症例の1/4が足の裏にできます。一部は露光部に発症し、日光との関連があると考えられています。悪性度が高いことで有名ですが、最近では早期発見により予後が良好な症例が増えています。

スキンケアによる皮膚がんの予防

先に述べた皮膚がんの多くは、長期間日光を浴びることによって発症すると考えられています。日光に含まれる紫外線は、皮膚にあたるとDNAを傷つけ、細胞をがん化させるリスクを高めます。日頃から日光に対する正しいスキンケアを行うことで、皮膚がんを予防することができます。

①日焼け止めの選び方 地上に降り注ぐ紫外線は、波長によりUVAとUVBに分かれます。日焼け止めの性能表示には、UVAを防ぐPA、UVBを防ぐSPFの2つがあります。PAは「+」「++」「+++」「++++」の4段階、SPFは2～50の数字で表されます。日常生活レベルの紫外線防御では、PA++、SPF30程度のもので選べばよいでしょう。

②日焼け止めの使い方 日焼け止めの効果はあまり長く続きません。汗をかかなければ3時間に1回、汗をかいた場合はその都度塗りなおすことをお勧めします。

皮膚がんの早期発見のために

他のがんと同様、皮膚がんも早期発見や早期治療で、予後が良好な症例が増えています。しかし、皮膚がんは胃がんや肺がんなどに比べると数が少なく、一般的にあまり認知されていません。また、自治体などによる皮膚がん検診もないため、患者さんご自身による皮膚のセルフチェック（皮膚がんのできやすい顔や手足の皮膚に、色、形、大きさに変化があるシミやホクロ、大きくなるできもの、治りにくい傷などがないかを観察すること）が大切です。気にかかる症状がある場合は、お気軽に皮膚科外来を受診してください。

我が国における変形性股関節症の有病率は1～4%程度とされ、男性は2%以下、女性は2～7.5%と女性に多い疾患とされている。その多くは先天性の發育性股関節形成不全や臼蓋（股関節の骨盤側の骨）形成不全、骨折などの外傷、感染症などが原因と考えられてきたが、近年いわゆる特発性（原因不明）の変形性股関節症の中に大腿骨寛骨臼インピンジメントと呼ばれる病態が明らかになってきた。これは臼蓋または大腿骨の軽微な形態異常によって両者が接触・衝突（インピンジメント）し、股関節唇や軟骨に損傷をきたすことにより最終的に変形性股関節症へと進行する病態である。

進行した変形性股関節症の治療は人工股関節置換術が一般的であるが、進行前であれば関節温存を図るための骨切り手術や股関節唇を修復するための内視鏡治療もある。臼蓋形成不全に対しては寛骨臼移動術（寛骨臼回転骨切り術）やキアリ骨盤骨切り術、臼蓋形成術（棚形成術）などの関節温存手術が一般的であり良好な長期成績が多数報告されている。また大腿骨寛骨臼インピンジメントは近年発展してきた内視鏡治療により良好な成績の報告が増えてきている。しかしその診断には特殊な撮像方法によるMRIや関節ブロックなど専門的な知識と検査手技が必要である。

人工股関節置換術は従来侵襲の大きな手術と位置付けられていたが、最近ではより小さな皮膚切開や筋組織の損傷を減らすため筋肉を切らずに股関節に到達できる侵入方法（前方アプローチ法）や、骨切除量を減らすための小型のインプラントなど様々な低侵襲手技が提案・実践されている。しかし低侵襲の人工股関節は従来よりも手技が難しく全ての医療機関で受けられるわけではない。また手術の適応となる変形性股関節症や関節リウマチ、大腿骨頭壊死症、外傷などの疾患は多岐に渡るが、正しい診断が必要であるため股関節診療の専門医師にかかり適切な診断のもとに治療を受けられることをお勧めしたい。

毎日新聞「四国健康ナビ」H29.2.28掲載

手術部の機能性が向上 -4室を新設し12室に-

手術部

2012年から企画がスタートし2014年に着工した手術部の増改築が、その工程の3分の2を終えました。手術棟の竣工から1年半、新しい手術室と旧棟が分断されたような状況で、厳しい動線を余儀なくされていましたが、ようやく、本年5月から手術部全体が一つの単位となって動き始めます。そして、手術室10室の運用であった旧手術部の時代から、新旧11室運用の過渡期を経て、新設4室を含めた全12室での運用が始まります。手術数増加への対応も目的の一つですが、最近では長時間の手術や、移植手術、複数科で実施する手術など、大学病院ならではの手術に対応して行くために、この増室は一番の念願事項でした。通常の手術を少しでも多く行えることは当然ですが、本院は県内における最後の砦としても期待されています。当然、手術部には多彩な緊急の状況に対応することが求められますが、手術室数の増加はそのための必須の条件になります。新しく完成した4室の手術室は旧棟ならではの柱等の制約こそありますが、昨年供用開始となった手術棟と同等に、効率化を達成しつつ高度な清浄度を維持する仕組みや、多彩な手術への対応が可能な性能を有していますし、患者さんの心理や快適性に配慮した構造と内装を持ち、精度の高い手術の実施を補佐できるよう、手術を担当する職員にとっての快適性にも配慮がなされています。

改築の最終段階が残っていますので、まだ完璧ではありませんが、本手術部が果たすべき役割を鑑みた場合、また一步、理想の形に近づいたと考えています。



平成29年度新研修医をよろしくお願いたします!

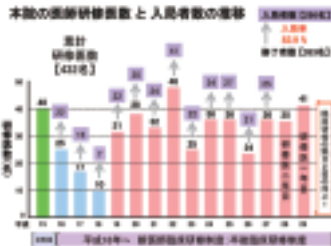
卒後臨床研修センター

今年度は、医科41、歯科3名の新研修医を本院に迎えました。

例年のように、新研修医オリエンテーションを5日間実施しました。オリエンテーションでは、医師としての心得をはじめ、医療安全に関する講義などを受講し、採血実習・救命救急処置講習(ICLS)等の実習に積極的に取り組む姿がみられました。病棟での研修開始後は、不安と緊張感を抱きながらも、指導医の指導の下、医師としての責任感を持ち修練に励んでいます。

本院を受診される患者様ならびにご家族の皆様におかれましては、大学病院としての使命である医師育成への御理解と御協力をお願いする次第です。研修医達の成長を温かく見守って下さいますようお願い申し上げます。

県民の皆様への期待に応えることができるように、将来の地域医療に貢献できる医師育成について、一層の努力を継続して参ります。今後ともご支援の程、よろしくお願いいたします。



フレッシュ看護職員

看護部

平成29年度新採用看護職員は、93名です。看護部職員数は700名を越えました。

現在、それぞれの配属部署で先輩看護師たちにより、“たしかなものを丁寧に”温かい指導を受けています。仲間達と一緒に頑張っています。ご指導の程、どうぞよろしくお願いいたします。



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H29.5・6月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
5/11 木	14:00~15:10	病院西1階カンファレンスルーム or 臨床栄養部 研修室	【糖尿病教室】 管理栄養士:見直してみませんか?今の食生活 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
5/18 木	14:00~16:00	病院2階 カンファレンスルーム	【がん患者サロンへようこそ】 第I部 ミニ講演会 講師:臨床心理士 柘植 薫 医療ソーシャルワーカー 小田優子 第II部 ミーティング 患者さん同士・ご家族の語らいの時間です。	がん相談支援センター	(087)891-2743
5/20 土	17:10~19:10	Rホテルクレメント 2階「雅」	第60回 日本皮膚科学会香川地方会	皮膚科	(087)891-2162
5/21 日	11:00~12:00	丸亀明レッツホール高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町老番街東館4階	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「虚血性心疾患とカテーテル治療 切らずに血管を治します」	総務課	(087)891-2008
5/25 木	14:00~15:10	病院西1階カンファレンスルーム or 臨床栄養部 研修室	【糖尿病教室】 管理栄養士:未定 薬剤師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
6/18 日	11:00~12:00	丸亀明レッツホール高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町老番街東館4階	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「未定」	総務課	(087)891-2008

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、石井(外来)、小野(総務)、笹川(放射線)、白神(麻酔)、田川(管理)、田中(看護)、藤原(病棟)、芳地(薬剤)、横井(情報)、横山(経営)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]